



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

オマーン：ソハールでの抗議行動の発生

(28日付マスカットデイリー紙他)

1. 28日付現地各紙およびインターネットニュースサイトによれば、27日のソハールでの集団示威行動において警察が参加者たちにゴム弾を発射したことにより、複数の死者および負傷者が発生した。

(1) マスカットデイリー紙「ソハールの黒い日曜日 (Black Sunday in Sohar)」

- ・ソハールのグローブ・ラウンドアバウト（注：ソハールは、ドバイとマスカットの間に位置し、グローブ・ラウンドアバウトは両都市を結ぶ主要幹線上にある）において、27日午前3時15分、警察は約30名の抗議者集団を解散させるため、催涙ガスを使用した。
- ・同日午前10時、抗議者たちがラウンドアバウトに戻ってきたので、警察は催涙ガスを使用し、抗議者たちは投石を始めた。正午までに死者1名、負傷者6名が出た。午後には2人目の死者が出た。
- ・同日夕刻、オマーン警察は死者2名、負傷者35名が出たことを認めた。
- ・サハム（ソハールから南東へ30kmの町）から来た抗議者は「私は自らの権利を平和的に主張するためデモに参加しに来た。私はバスドライバーとして、月200リヤル（約42000円）で働いている」と述べた。別の抗議者は「私たちは仕事を必要としている。長い間仕事を探しているが、会社の給料は低すぎる」と述べた。
- ・抗議者たちのスポークスマンであるハシュミ氏は、アリー宮内大臣と話し、同大臣が早急に問題を調査すること、およびソハールで拘束された者を解放することを約束したと述べた。
- ・同日、シーブ（マスカット近郊）の諮問評議会前に約100名の抗議者が集まり、ソハールでの市民への暴力を停止するよう訴えた。マアワリ諮問評議会副議長およびサアド諮問評議会副議長が抗議者たちの要求を聞くためにその場に居合わせ、彼らの要求をカブース国王へ届けることを約束した。

(2) タイムズオブオマーン紙

- ・27日、ソハールにおいて政治改革を要求する数百名の抗議者たちに対し、警察がゴム弾を発砲して、2名の死者が発生した。警察は当初、催涙ガスと警棒で広場に集まる抗議者を解散させようとした。
- ・抗議者たちは、前日に拘束された仲間の解放を求めて警察署に押し寄せた。警察がゴム弾を群集に発砲する前に、空に向けて威嚇射撃を行ったところ、抗議者の多くが逃げ出し、その際に2名が死亡した。
- ・オマーン警察筋によると、12名の抗議者が負傷した。
- ・同日、アリー宮内大臣は、デモ集団の要求を聞くためソハールへと向かった。

(3) オブザーバー紙（政府系）

- ・26日から続くソハールでのデモが、同地域の交通に影響を与えており、市民の通勤を妨げ

ている。デモ隊は、公共、民間の自動車に火をつけ、ソハール州知事宅などを破壊した。警察署への放火や国家評議会議員への襲撃も行っている。

- ・警察は事態を沈静化しようと試みたが、デモ集団による攻撃によって負傷者が発生したため、自己防衛せざるを得なかった。

#### (4) ロイター通信

- ・ソハールの国立病院の医師は、27日のデモの死者数は6名であったと述べた。他方、28日にオマーン政府は、27日のデモで6名の死者が発生したという報道を否定し、死者は1名であったと述べた。

2. 28日付現地各紙は、27日に発出された国王指令、同指令を受けた諮問議会の動きなどについて報じた。

##### (1) 27日にカブース国王が発出した国王指令

- ・オマーン国民のため5万人の雇用を創出する。
- ・人的資源省に登録している求職者に対し、職が見つかるまでの間、月々150リヤルを支給する。
- ・次期諮問議会議員から幾名かの閣僚を選出する。
- ・諮問議会の権限強化について、諮問議会から提出された提案を実施するために、宮内相を議長とする閣僚委員会を設立する。
- ・検察の独立について、目標達成のために必要な措置を実施する。
- ・国家会計検査院の権限強化について、行政機構の財政政策の規制と調整のため、オマーン評議会（諮問議会および国家評議会）の議員を国家会計検査院に加える。

##### (2) 26日ファハド副首相はイーサイー諮問議会議長および諮問議会議員などと会談した。

- ・同会談では、カブース国王が国民の生活水準の向上や社会的要望に対して非常に注意を払っていることを受けて、政府に対しできるだけ早く諸問題や同要望を検討することを指示したことが明らかになった。
- ・同会談では、諮問議会が提出した社会問題に関する勧告について議論が行われ、議員はソハールでの抗議者が収入を向上させるための就職機会と手当の増加を要求していると指摘した。また議員は、国王陛下および祖国への忠誠を表明し、国家の未来と進展についての確信を表明した。
- ・ファハド副首相は、オマーンでは経済、インフラ、公共サービスの分野において大きな進展が達成された後、社会に質的な変化が現在起こっていると強調した。

(3) 27日、諮問議会は、カブース国王の支持を受けて、民間部門の最低月給を200リヤルに上げる閣僚評議会の決定を歓迎した。また諮問議会は、デモ行進の参加者による改革要求について議論した。同議論を踏まえて、イーサイー諮問議会議長は、特に求職者や継続的な物価上昇といった緊急の問題について、諮問議会の見解を含む緊急報告を提出する予定である。

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799